

第2次定山溪観光魅力アップ構想（素案）【概要版】

第1章 構想策定にあたって

■ 策定の背景・目的

- 平成27年度（2015年度）に「第1次定山溪観光魅力アップ構想」を策定。平成27年度（2015年度）から令和6年度（2024年度）を取組期間として各施策を実施。
- 定山溪を取り巻く環境は、人口減少に伴う国内旅行需要の減少や持続可能な観光に関する意識の高まりなど、大きく変化している状況にある。
- 現在の定山溪は、多様な楽しみ方ができる温泉観光地へと進化している一方、近年の観光客数は減少傾向にある。
- 定山溪を持続的に発展させる為に、地域資源の磨き上げ、外部環境の変化に応じて、新たな価値の創造・発信等に資する施策を展開し続けていくことが必要。

「第2次定山溪観光魅力アップ構想」を策定

（取組期間：令和7年度（2025年度）から令和16年度（2034年度））

※社会経済情勢や成果指標、事業の進捗を照らし合わせながら、必要に応じて構想の見直しを検討する。

■ 対象エリア

本構想では、定山溪温泉街だけではなく、隣接する小金湯温泉や八剣山、豊滝、豊平峡、札幌国際スキー場までを含んだ広域的な観光エリアを“定山溪”として表現。

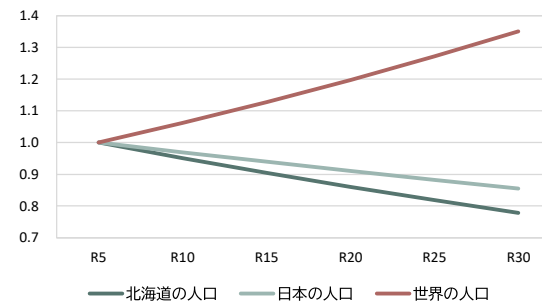
「定山溪観光魅力アップ構想」の対象エリア



第2章 観光市場の動向

- ・国内人口の減少を見据えると、外国人観光客の誘客など重要性が増す。
- ・道外観光客の北海道旅行の旅行形態は、個人で直接手配する形態が増加。
- ・国内宿泊観光旅行の同行人数は、1人や少人数での旅行が増加。
- ・「にっぽんの温泉100選ランキング」では、定山溪の順位が、令和6年度（2024年度）の総合順位が37位であり、第1次構想が策定された平成26年度（2014年度）の順位と比較して上昇。

令和5年（2023年）を基準とした令和30年（2048年）までの世界・日本・北海道の人口増減率（倍）



国内温泉地のランキング

総合順位			雰囲気順位			温泉地	所在地
H26	R6	比較	H26	R6	比較		
1	1	—	1	1	—	草津	群馬県
7	2	↑	4	2	↑	道後	愛媛県
3	3	↑	10	3	↑	下呂	岐阜県
4	4	—	7	6	↑	別府八湯	大分県
5	5	—	9	9	—	有馬	兵庫県
6	6	—	8	8	—	登別	北海道
9	7	↑	6	10	↓	指宿	鹿児島県
8	8	—	3	5	↓	黒川	熊本
10	9	↑	5	4	↑	城崎	兵庫県
12	10	↑	11	11	—	箱根	神奈川県
2	11	↓	2	7	↓	由布院	大分県
...	...	...	...	...	...	...	...
33	22	↑	71	37	↑	十勝川	北海道
...	...	...	...	...	...	...	...
35	36	↓	49	42	↑	湯の川	北海道
...	...	...	...	...	...	...	...
53	37	↑	45	28	↑	定山溪	北海道
...	...	...	...	...	...	...	...
48	52	↓	43	44	↓	阿寒湖	北海道
...	...	...	...	...	...	...	...
50	55	↓	94	97	↓	川湯	北海道
...	...	...	...	...	...	...	...
87	56	↑	84	60	↑	層雲峡	北海道
...	...	...	...	...	...	...	...
78	58	↑	53	54	↓	ウトロ	北海道
...	...	...	...	...	...	...	...
66	59	↑	60	56	↑	洞爺湖	北海道

第3章 定山溪観光の現状

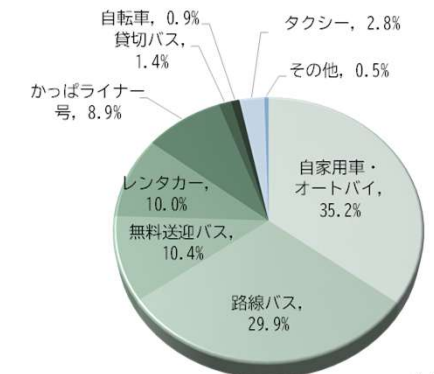
■ 交通アクセス

- ・定山溪～札幌中心部は自動車を利用して約1時間でアクセス可能。
- ・定山溪エリアにおける路線バスの運行状況は、コロナ禍以前からバスの運転手不足により減少していたが、コロナ禍以降もこの傾向は続いている。
- ・札幌駅や真駒内駅等と宿泊施設を結び、無料送迎バスを運行する宿泊施設がある。
- ・定山溪の主な移動手段は、自家用車・オートバイが最も多い。

■ 歴史

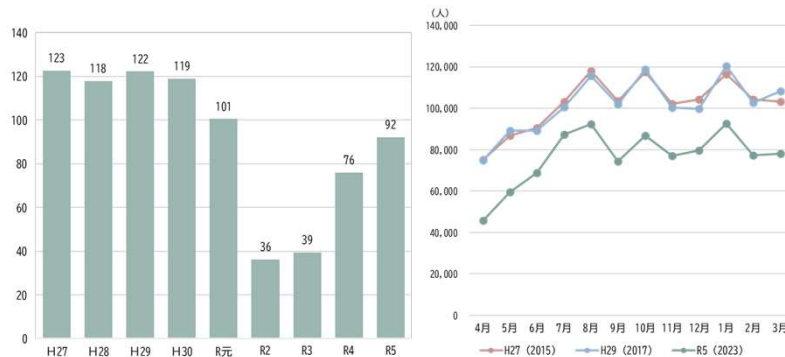
- ・令和5年（2023年）には国道230号線石山～定山溪間の4車線拡幅工事が完了。それに伴い、道路混雑の緩和や交通量の増加がみられ、札幌からのアクセス性が向上。

定山溪へ来訪する際の利用交通機関



観光入込動向

- 定山溪の宿泊客数は、コロナ禍により大きく減少したが、令和5年度（2023年度）は92万人まで回復。



- 定山溪温泉旅館組合が実施した調査結果によると、令和5年度の定山溪の宿泊延べ人数は、札幌市民が3割と最も多い。
- 定山溪に訪れる日本人は、市民割合が減り、道外からの客数が増加している。
- 定山溪に訪れる外国人観光客は、令和5年度は韓国が6割と最も多く、第1次構想策定時と比べて、客層が大きく変化している。

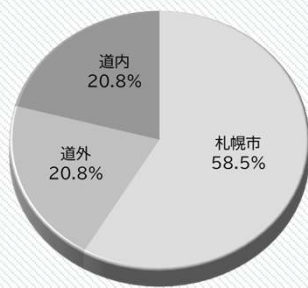
定山溪の宿泊延べ人数（全体）

令和5年度
（2023年度）

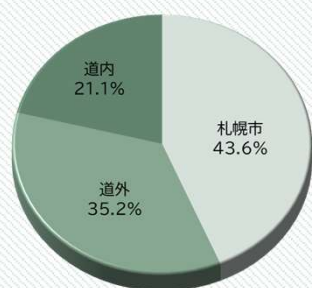


日本人宿泊者の居住地

平成24年度
（2012年度）

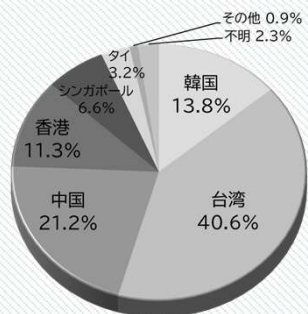


令和5年度
（2023年度）

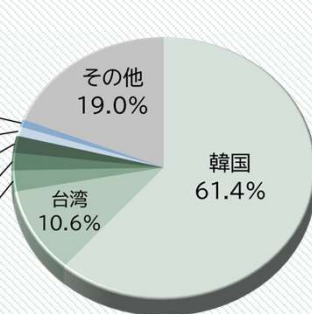


外国人観光客（延べ宿泊者数）の割合

平成25年度
（2013年度）



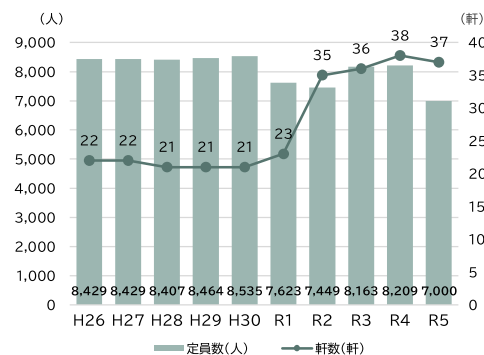
令和5年度
（2023年度）



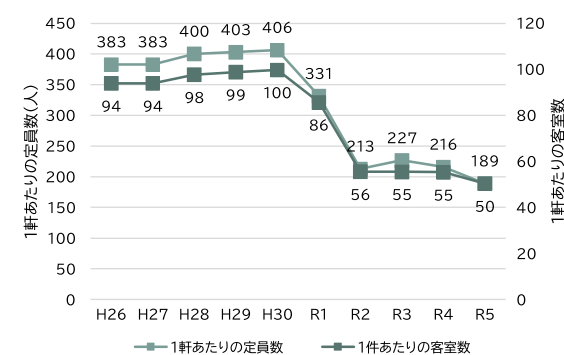
定山溪の宿泊施設の状況

- 定山溪の宿泊施設の軒数は、令和5年度（2023年度）は37軒と増加傾向。1軒あたりの定員数・客室数は減少傾向（H26比17%減）。

定山溪の宿泊施設の軒数・定員数の推移



定山溪の宿泊施設の1軒あたりの定員数・客室数



観光資源

自然・文化

エリアの中央を流れる雄大な豊平川と、それを囲む緑豊かな溪谷が特徴的。豊平峡ダムや定山溪ダムなどの自然を生かした観光資源、アイヌ民族の生活・文化を学べる施設もある。

温泉

定山溪には、4つの泉質が異なる温泉があるのが特徴。令和6年（2024年）に開湯した二見の足湯では、豊平川を含めた定山溪の景色を見ながら定山溪温泉を愉しめる。

アクティビティ

定山溪の自然を生かしたアクティビティが充実し、カヌーやSUP、サイクリング、登山などを楽しめる。冬季のアクティビティも充実。

食・土産

令和3年（2021年）以降12軒の飲食店が新たに開業しており、飲食店を目的に定山溪を訪れる日帰り客も増えて、定山溪グルメの人气が高まっている。

イベント

6月上旬から10月下旬まで開催する「JOZANKEI NATURE LUMINARIE」や、「五大紅葉」、「定山溪温泉溪流鯉のぼり」、「雪灯路」など、年間を通じて四季折々のイベントを楽しむことができる。



二見の足湯



冬のラフティング



JOZANKEI NATURE LUMINARIE

■ 第1次構想の振り返り

- 第1次構想で掲げた成果指標は、いずれも基準値より上昇しており、確実に成果は出ているが、目標値には及ばなかった。
- 要因としては、大規模宿泊施設の廃業やコロナ禍からの観光需要の回復途上にあることが挙げられる。

【第1次構想で掲げる成果指標】

成果指標	基準値※1	目標値	実績値※2
定山溪地域の延べ宿泊者数	1,197千人	1,450千人	925千人
温泉街の街並みに魅力があると感じる人の割合	42.2%	60.0%	55.9%
周辺観光スポットが充実していると感じる人の割合	39.3%	60.0%	46.6%

※1 基準値の「定山溪地域の延べ宿泊者数」は平成25年度（2013年度）、それ以外は平成24年度（2012年度）の実績値を採用。

※2 令和6年度（2024年度）実績値

- 第1次構想の実績や事業者に対するヒアリング結果から、第1次構想で掲げる主な取組のうち、アクセスに関する取組（交通アクセスの充実や日帰り駐車場及び拠点施設整備の検討）および景観づくりに関する取組（定山溪の来訪者が満足できるような景観づくり、温泉街らしさの雰囲気づくり）、知名度アップの取組は第2次構想以降も引き続き検討が必要な取組である。

■ 現状の分析

- 第1次構想の振り返りを基に、定山溪の現状の特徴を以下に整理した。

① 国内人口の減少、海外市場の拡大

- 需要を支えてきた道内人口は、日本全体より早いペースで減少すると予測されている。今後も需要を確保していくためには、外国人観光客や、アクティビティ、グルメなどを目的とした日帰り客の誘客拡大を含めた新たな市場開拓が必要。

② 客層の変化

- 個人旅行の増加や外国人観光客の来訪による客層の変化が進んでいることから、地域内にある資源を活用しながら、観光客のニーズの変化、多様化に対応した観光地づくりを進めていくことが必要。

③ 魅力的な景観形成に向けた取組

- 定山溪温泉街全体の魅力を高めていくためには、多種多様な観光資源が所在するエリア別の特性に応じて、面的に景観形成を進めることが重要。また、長期的な視野を持ち、継続して景観形成の取組を進める体制の整備も課題。

④ 滞在時間の短さ

- 観光地として持続可能であるためには、様々な魅力を提供することで滞在時間を延長し、来訪客一人当たりの観光消費額の拡大を図ることが重要。

⑤ 定山溪の顔となるような特徴的なイメージの弱さ

- 観光地としての定山溪の魅力を高めていくためには、他の観光地では代替できない定山溪固有の魅力を高め、観光客に提供していくという視点が重要。

⑥ 定山溪エリアとしての誘客戦略

- 定山溪には施設の規模や価格帯も含めて多種多様な宿泊施設が立地しているが、定山溪エリアとしてターゲットを絞った戦略を立てることの難しさがある。

⑦ 定山溪までの交通アクセス

- 定山溪を訪れる観光客の移動手段の一つである路線バス等は近年、運転手不足等により運行本数が減少している。コロナ禍後の観光客数の増加や個人旅行の増加もあり、時期や路線によっては、非常に混雑する場合がある。
- 宿泊施設が運行する送迎バスも、運転手不足などから維持が困難と考える宿泊施設がある。

⑧ 定山溪エリア内の交通手段及び駐車場の不足

- 温泉街と周辺の観光拠点を結ぶ交通手段が限られているほか、日帰り客や宿泊前後の方が利用できる駐車場も不足しており、回遊性を高める環境整備が必要。

第3章定山溪観光の現状及び第4章定山溪観光の課題および、定山溪観光のコンセプトを踏まえ、定山溪の観光魅力アップを目指す将来像の実現に向け、以下の4つの基本方針を掲げます。

また、4つの基本方針に基づく取組を実行するに当たって、短期的に取り組む「重点施策」を設定し、魅力的な温泉観光地の実現に向けて、着実に進めていきます。

【定山溪観光の現状】

- ①国内人口の減少、海外市場の拡大
- ②客層の変化
- ③魅力的な景観形成に向けた取組
- ④滞在時間の短さ
- ⑤定山溪の顔となるような特徴的なイメージの弱さ
- ⑥定山溪エリアとしての誘客戦略
- ⑦定山溪までの交通アクセス
- ⑧定山溪エリア内の交通手段及び駐車場の不足

【定山溪の観光魅力アップに向けた課題】

- ①新たな市場の開拓
- ②客層の変化への対応
- ③エリアの特性に応じた戦略的な景観形成
- ④滞在時間の延長
- ⑤地域固有の資源の磨き上げ
- ⑥データに基づいた戦略づくりに向けた基盤整備
- ⑦定山溪までの交通利便性の確保
- ⑧定山溪エリア内の交通利便性の確保

コンセプト

国内外の来訪者を魅了する持続可能な温泉観光地「札幌定山溪」

コンセプトに込められた意味

○観光客と地域がともに利益を享受し、継続的に発展するためには、札幌市民に愛される存在であり続けることに加え、近年増えている海外からの観光客を含む多様なニーズや顧客層への対応が求められる。

○定山溪の強みである四季折々の豊かな自然や観光スポット、多種多様な宿泊施設、北海道を代表する温泉観光地として積み重ねてきた歴史など地区内の様々な資源を磨き上げ、国内外の来訪客が豊かな時間を過ごすことができるよう、新たな時代を切り拓く創造的で魅力的な温泉観光地を目指す。

基本方針1

定山溪の魅力を
感じる街並みや
景観の維持/形成

基本方針2

エリアの特性を
活かした
コンテンツの充実

基本方針3

戦略的な
プロモーション
の展開

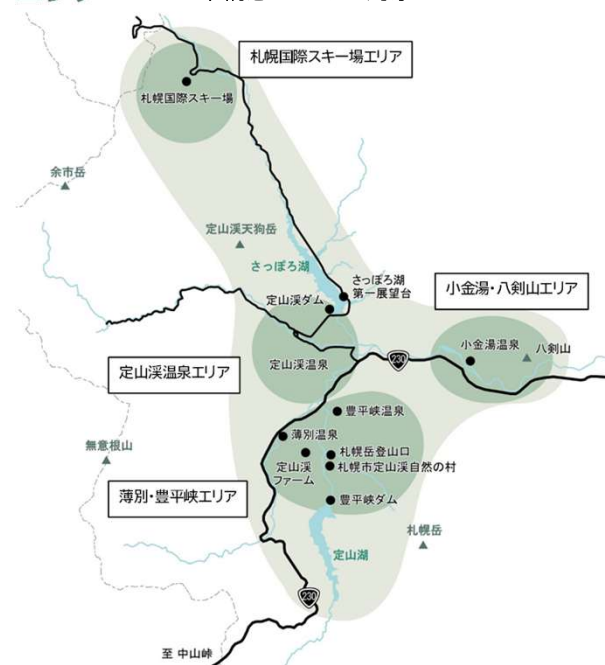
基本方針4

交通アクセス
の改善

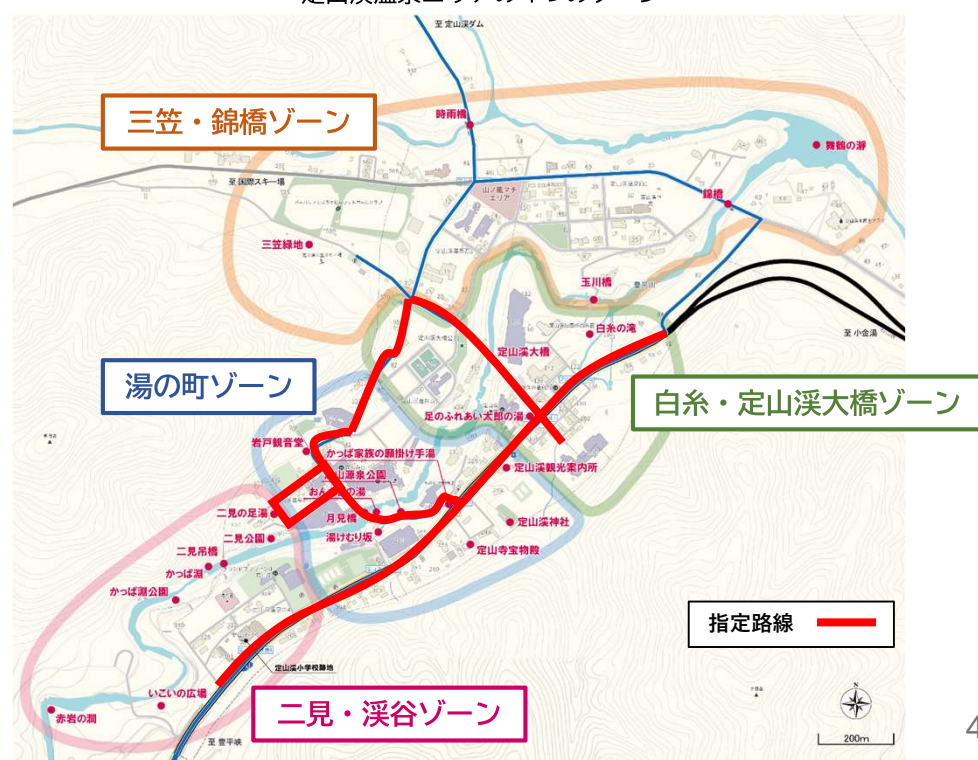
■ 本構想における対象エリアとゾーニング

- ・本構想では、定山溪温泉街周辺を「定山溪温泉エリア」、小金湯温泉や八剣山周辺を「小金湯・八剣山エリア」、薄別温泉や豊平峡温泉、豊平峡ダム周辺を「薄別・豊平峡エリア」、札幌国際スキー場周辺を「札幌国際スキー場エリア」と呼ぶ。
- ・定山溪の中心となる「定山溪温泉エリア」は、場所によって景観や特徴が異なるため、定山溪温泉街を以下の4つのゾーンに設定。

本構想における対象エリア



定山溪温泉エリアの4つのゾーン



基本方針１：定山溪の魅力を感じる街並みや景観の維持/形成

【ねらい】

○定山溪温泉街のゾーニング及び「定山溪地区景観まちづくり指針」（平成29年（2017年）策定）を踏まえるとともに、「かわまちづくり計画による河畔園地の整備や景観の改善」を重点施策とし、多様な宿泊施設等を有する温泉街の街並みと豊かな自然環境が形成する景観の魅力を高め、来訪者の満足度向上や口コミなどによる波及効果の拡大を図る。

方向性１ 豊かな自然を大切にする景観まちづくり

＜取組例＞ ・かわまちづくり計画による河畔園地の整備等 など

方向性２ 歩いて楽しい賑わいとおもてなしを感じる景観まちづくり

＜取組例＞ ・国道230号沿い等におけるウェルカム感の醸成 など

方向性３：溪谷美を守り活かす景観まちづくり

＜取組例＞ ・かわまちづくり計画に基づく護岸整備にあわせた月見橋周辺等の景観の改善及び河川敷等の利用ルール策定 など

方向性４：湯の町の成り立ちを継承する景観まちづくり

＜取組例＞ ・定山溪神社や岩戸観音堂など温泉街の歴史を感じる資源が残る景観の維持継承 など

基本方針２：エリアの特性を活かしたコンテンツの充実

【ねらい】

○「エリアやゾーンごとの特性を活かしたコンテンツや、四季折々の定山溪ならではのコンテンツの充実」を重点施策とし、多様化する観光ニーズに対応するとともに、インバウンドや日帰り客といった新たな客層の取り込みを図る。また、様々な魅力的なコンテンツを提供することで、宿泊日数及び滞在時間の延長に繋げる。

方向性１ 定山溪温泉街におけるゾーニングとコンテンツの磨き上げ

＜取組例＞ ・「二見公園」、「二見定山の道」（二見吊橋～赤岩の澗）の利活用促進
・定山溪大橋から望む溪谷と温泉街が調和した景観の維持向上、演出の検討 など

方向性２ 定山溪エリア内のコンテンツを活かした滞在メニューの充実

＜取組例＞ ・コンテンツを組み合わせた滞在メニューの充実 など

方向性３ 季節の特色を活かしたコンテンツの充実

＜取組例＞ ・既存のイベントの充実や、季節の特徴を活かしたお祭りなどの新たなイベントの検討
・季節の特色を活かしたコンテンツの充実 など

基本方針３：戦略的なプロモーションの展開

【ねらい】

○「データ分析に基づいた市場開拓」を重点施策とし、DMOが持つ観光データの収集・分析機能や、各関係団体との連携・調整機能を活用しながら、時代の流れを汲み取ったきめ細やかで効果的なプロモーション施策を展開し、新規市場の開拓やリピーターの増加に繋げる。

方向性１ 戦略的なプロモーションの展開に向けた基盤の構築

＜取組例＞ ・定山溪の観光データの充実に向けた、地元観光関連事業者の負担も考慮したデータ収集方法の検討 など

方向性２ ターゲットに応じたプロモーション戦略の立案

＜取組例＞ ・ターゲットや滞在目的に応じた適切な媒体を活用したプロモーションの検討 など

方向性３ プロモーションの展開と結果の検証

＜取組例＞ ・収集したデータの分析に基づくプロモーションの成果、その他地元観光関連事業者にとって有益な情報の共有 など

方向性４ 様々な主体を巻き込んだ情報発信

＜取組例＞ ・地元観光関連事業者間における取組の共有と積極的な情報発信 など

基本方針４：交通アクセスの改善

【ねらい】

○「定山溪エリアの交通利便性の確保」を重点施策とし、定山溪までの交通アクセスや、定山溪内における移動手段の充実を図るとともに、それらの交通を受け入れる環境整備を行うことで、利便性・快適性を向上させ、来訪者の増加や滞在時間の延長を図る。

方向性１ 定山溪までの交通アクセスの充実

＜取組例＞ ・季節変動に応じた増便対応等に関連する交通事業者との連携強化
・手荷物別送サービスなど、快適性の向上や混雑緩和に資する取組の推進 など

方向性２ 定山溪内における移動手段の充実

＜取組例＞ ・積雪期における定山溪温泉街と札幌国際スキー場エリア間のアクセス強化
・新たな移動手段の導入検討 など

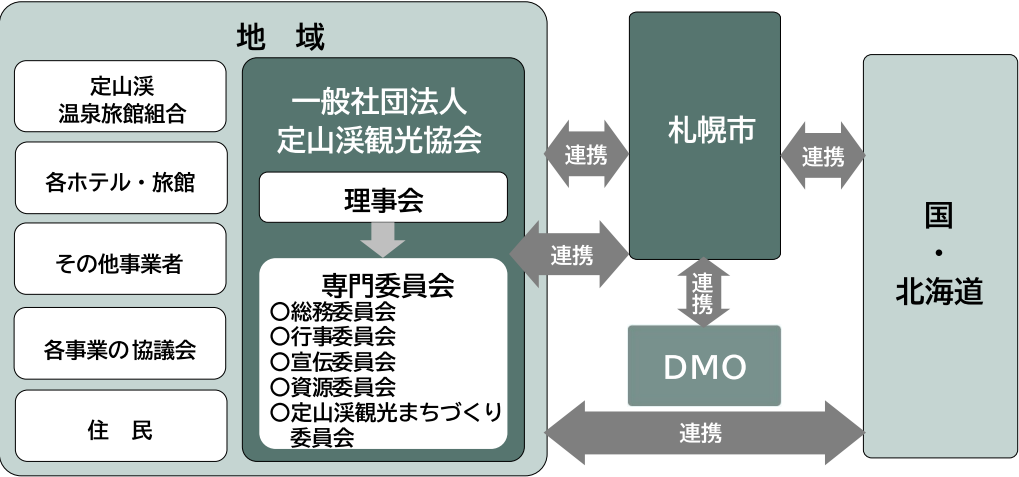
方向性３ 受入環境の整備

＜取組例＞ ・有料駐車場の設置に向けた実証実験の実施
・遊休地などを活用した駐車場整備の検討 など

第6章 観光魅力アップの推進に向けて

■ 本構想の推進体制

- ・本構想では、検討会議で議論された内容を踏まえ、定山溪観光協会の各専門委員会と市の役割を整理し、新たに設立されたDMOとの連携も視野に、推進体制を強化していく。
- ・定山溪観光協会における事務局機能についても、人員や体制などを含め強化を検討する。



※専門委員会の名称及び数はR 7年2月時点のもの

■ 成果指標

- ・第2次札幌市観光まちづくりプランで掲げる成果指標を踏まえ、以下を本構想の成果指標とする。また、成果指標の目標達成に関連する指標についても目標値を設定。

成果指標		基準値	目標値 (令和17年度(2035年度))
関連指標	定山溪の総観光消費額 (定山溪を訪れた国内外の日帰り・宿泊の観光客を対象とする)	470億円	888億円
	定山溪地域の延べ宿泊者数	925千人	1,284千人
	温泉街の街並みに魅力があると感じる人の割合	55.9%	70.0%
	周辺観光スポットが充実していると感じる人の割合	46.6%	60.0%
	北海道を訪れた観光客における定山溪の認知度	調査数値	基準値より10%アップ
	交通環境に関する満足度	調査数値	基準値より10%アップ

■ 進行管理、成果の検証

- ・統計数値は、毎年度更新し、成果指標の進捗管理を行う。
- ・社会経済情勢、成果指標、事業の進捗状況を照らし合わせながら、事業が適切に進行しているか検証を行う。
- ・検証の結果を踏まえ、必要に応じて事業の追加や見直しを行うほか、データの収集方法を改善するなど、適宜対策を立案し、実行していく。

■ 実施主体及び展開スケジュール（一例）

- ・重点施策に基づき、早期に着手する取組は、**早期着手** マークを付けている。

基本方針・取組例	実施主体	短期的な取組例	中長期的な取組例
基本方針1 定山溪の魅力を感じる街並みと景観の維持・形成			
① 豊かな自然を大切に景観まちづくり			
■かわまちづくり計画と連動した景観の形成			
・かわまちづくり計画による河畔園地の整備等 早期着手	札幌市、空知総合振興局、定山溪観光協会(資源、まち)、定山溪地区(豊平川)かわまちづくり協議会 早期着手	計画に基づく整備	適切な維持管理
② 歩いて楽しい賑わいとおもてなしを感じる景観まちづくり			
・国道230号沿い等におけるウェルカム感の醸成 早期着手	札幌市、定山溪観光協会(総務、行事、宣伝)、定山溪温泉旅館組合、ホテル・旅館、その他事業者	歓迎フラッグ装飾などによる取組の充実	
基本方針2 エリアの特性を活かしたコンテンツの充実			
① 定山溪温泉街におけるゾーニングとコンテンツの磨き上げ			
■二見・深谷ゾーン ～自然との触れ合い体験を重視			
・「二見公園」、「二見定山の道」(二見吊橋～赤岩の洞)の利活用促進 早期着手	札幌市、石狩振興局、空知総合振興局、定山溪観光協会(資源、行事)、その他事業者	二見吊り橋など景観の維持管理	
■三笠・錦橋ゾーン ～グルメと自然の調和、賑わいと癒しを重視			
・河川敷地をアクティビティ等で利用する際のルール策定 早期着手	札幌市、定山溪地区(豊平川)かわまちづくり協議会、その他事業者	ルールの策定	ルールの運用
③ 季節の特色を活かしたコンテンツの充実			
・既存のイベントの充実や、季節の特徴を活かしたお祭りなどの新たなイベントの検討 早期着手	定山溪観光協会(行事、宣伝)、その他事業者	既存のイベントの魅力向上	新たなイベントの検討
基本方針3 戦略的なプロモーションの展開			
② ターゲットに応じたプロモーション戦略の立案			
・ターゲットや滞在目的別のアプローチ 早期着手	札幌市、定山溪観光協会(宣伝)	－	①を踏まえた実施
③ プロモーションの展開と結果の検証			
・収集したデータの分析に基づくプロモーションの成果、その他地元観光関連事業者にとって有益な情報の共有 早期着手	札幌市、定山溪観光協会(宣伝)	観光関連事業者が求めるデータ等の提供	
基本方針4 交通アクセスの改善			
① 定山溪までの交通アクセスの充実			
■アクセス手段の維持・確保			
・季節変動に応じた増便対応等に関連する交通事業者との連携強化(札幌駅からの直行バス等) 早期着手	札幌市、定山溪観光協会(まち)、その他事業者	観光客専用バス運行等による交通アクセスの充実	
■移動における快適性の向上			
・快適性の向上や混雑緩和に資する取組の推進 早期着手	札幌市、定山溪観光協会(宣伝)、定山溪温泉旅館組合	手荷物別送サービスなど手ぶら観光の促進	
② 定山溪内における移動手段の充実			
■周遊の魅力向上			
・新たな移動手段の導入検討 早期着手	札幌市、定山溪観光協会(まち)	実証実験	検証を踏まえた取組の充実
③ 受入環境の整備			
■定山溪温泉街における駐車場の整備			
・有料駐車場の設置に向けた実証実験の実施(スポーツ公園駐車場を試行的に有料駐車場として運営) 早期着手	札幌市、定山溪観光協会(まち)、その他事業者	実証実験	検証を踏まえた取組の充実